



2009年3月27日

各 位

会 社 名 イオン北海道 株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 植村 忠規
(コード番号 7512 東証1部・札証)
問合わせ先 取締役執行役員
管理本部長 天廣 俊彦
(TEL 011-865-9405)
当社の親会社 イオン株式会社
取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
(コード番号 8267 東証1部)

2009年2月期業績予想の修正に関するお知らせ

2009年1月28日に公表した2009年2月期(2008年3月1日~2009年2月28日)の業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせします。

記

1. 連結業績予想数値の修正

2009年2月期通期連結業績予想数値(2008年3月1日~2009年2月28日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	163,000	2,300	1,400	2,100
今回発表予想(B)	156,850	1,647	931	2,013
増減額(B-A)	6,150	653	469	87
増減率(%)	3.8	28.4	33.5	-
(参考)前年同期実績	147,594	2,362	1,383	3,585

2. 個別業績予想数値の修正

2009年2月期通期個別業績予想数値(2008年3月1日~2009年2月28日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	163,000	1,900	1,400	2,110
今回発表予想(B)	156,850	1,148	890	2,040
増減額(B-A)	6,150	752	510	70
増減率(%)	3.8	39.6	36.4	-
(参考)前年同期実績	147,594	1,863	1,354	3,568

3.業績予想修正の理由

世界的な金融危機の影響を受け、消費者の意識は生活防衛行動へと急速に変化しており、小売業を取り巻く環境は下期以降急激に悪化し、現在もその状況が続いております。これらの当社をとりまく環境の変化に対応すべく、イオン共通システムの導入を第3四半期に実施し、品揃えや発注等のオペレーションの効率化を実現するとともに、イオングループのプライベートブランドである「トップバリュ」の拡販体制を確立してお客さまの生活防衛意識に応えていくとともに収益力向上に取り組んでまいりました。しかし、第4四半期においても消費動向は低調に推移し、売上高既存比は91.7%の状況にあります。一方で業務の効率化、設備投資を中心としたコストの見直しなど経費削減に取り組んでまいりましたが、荒利益高の減少をカバーするには至りませんでした。このような状況により、2008年度の個別業績は売上高1,568億50百万円、営業利益11億48百万円、経常利益8億90百万円と、前回予想数値を下回る結果となる見込みであります。

また、上記の理由による個別業績予想の修正に伴い、連結業績予想も前回予想数値を下回り、売上高1,568億50百万円、営業利益16億47百万円、経常利益9億31百万円となる見込みであります。

上記記載の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上